

(行政視察・政務活動・議員研修) 報告書

令和 6年 7月 15日

白石市議会議長 松野久郎 殿

議員氏名 村上 由紀

下記のとおり行いましたので報告いたします。

期 間	令和 6年 7月 2日(火) ～ 7月 3日(水)	
調査・研修先	山形県天童市・東根市・新庄市	
調査事項 (研修事項)	<p>天童市：子育て支援のトータル施策状況について 「第二期天童市子ども・子育て支援事業の概要実施状況について」</p> <p>東根市：①「さくらんぼタントクルセンター」総合保健福祉施設について ②「まなびあテラス」(図書館を含む)公益文化施設について</p> <p>新庄市：「新庄市立萩野学園」小中一貫義務教育学校について</p>	
対応者・講師等	<p>【天童市】</p> <p>天童市議会議長 遠藤 敬知氏 健康福祉部 子育て支援課課長 早川美由紀氏 健康福祉部 子育て支援課課長補佐兼子ども育成係長 並木 勝範氏 健康福祉部 子育て支援課課長補佐兼こども企画係長 村山 貴之氏 健康福祉部 健康課長 花輪 達也氏 健康福祉部 健康課課長補佐 母子保健係長 高橋 朋美氏 健康福祉部 健康課 発達支援係長 東海林千秋氏</p> <p>【東根市】</p> <p>①さくらんぼタントクルセンター 健康福祉部子ども家庭課課長 早坂 康 氏 健康福祉部子ども家庭課課長補佐 笹原ゆう子氏 議会事務局 議事係長 鈴木 雄太氏</p> <p>②まなびあテラス まなびあてらすスタッフ 西 澤 氏 議会事務局 議事係長 鈴木 雄太氏</p> <p>【新庄市】</p> <p>新庄市議会議長 佐藤 卓也氏 教育委員会学校教育課 課長 杉沼 一史氏</p>	



	社会教育課総務主任 市立萩野学園 統括教頭 市立萩野学園 後期ブロック教頭 議会事務局	武田 信也氏 荒川勇一先生 元木久夫先生 秋 葉 氏
概 要 ① 背景・目的 ② 内容・特色 ③ 主な質疑 ④ 考察 (感想、課題、 政策提言等)	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 山形県天童市視察：概要 </div> <p style="text-align: center;"><u>①背景・目的</u></p> <p>全国的な少子高齢化の急速な進展に伴い、本格的な人口減少社会の到来により、子育てをめぐる地域や家庭状況は大きく変化してきています。本市も令和5年度の出生数が100人を切るという、まさに重大な局面に立たされていることから、「子育て支援日本一挑戦中」を掲げ、各課と連携した一体的な施策を展開する子育て支援の取り組みについて視察する。</p> <p style="text-align: center;"><u>②内容・特色 / ③主な質疑</u></p> <p>「第二期天童市子ども・子育て支援事業の概要実施状況について」</p> <p style="text-align: center;">◆計画策定の経緯</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「次世代育成支援対策推進法（H17年4月10年間の次元立法）」に基づき 「新わらべプラン（天童市次世代育成支援行動計画）H17年度～26年度」 <u>少子化対策と子育て支援に積極的に取り組む</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「第一期天童市子ども・子育て支援事業計画（H27年度～R元年度）」策定 <u>より良い子育てができる環境づくりを進める</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「第二期天童市子ども・子育て支援事業計画（R2年度～R6年度）」策定 <u>子どもを持つ家庭への幅広い子育て支援事業のさらなる充実</u></p> <p style="text-align: center;">↓</p> </div> <p>現在「第三期天童市子ども・子育て支援事業計画（R7年度～）」策定中</p> <p style="text-align: center;">◆計画の基本的な考え方（基本目標・特色ある施策のみ記載）</p> <p style="text-align: center;">○基本目標1「一人ひとりの子どもの成長を育む環境づくり」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1. 未就学児の子育て支援</p> <p>1) 幼児教育・保育施設の量の確保と適切な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定子ども園の普及・認可保育所及び小規模保育事業所等の整備支援 特に<u>需要の伸びが大きい0歳児から2歳児の定員枠に不足が生じないよう、計画的に整備する</u> </div>	

2) 多様なニーズへの対応と充実

- ・延長保育 ・休日保育（民間事業者への働きかけと支援）

- ・病児病後保育（7市7町が連携、市町村負担金制度）

市内4か所に設置

～預かり内容（園によって違いはあるが概ねの内容）～

病児：満1歳～就学前 病後：満1歳～小学校6年生まで

利用料金：日額 1,000円～2,000円

受け入れ人数：2人～6人（症状により定員が変更になる場合がある）

1回の利用で5日～7日まで利用可能

病児病後保育
Q&A

Q：設置場所・人員体制について

A：健康センター内、認定こども園併設（園併設の場合は入口も別）

病児・病後保育専用保育室、民間保育園内計4か所に設置し

専任の看護師及び保育士が保育にあたる。

Q：R5年度利用者数について

A：4か所計187人

Q：課題について

A：システムを導入してスマホで予約、電話、窓口予約と、市によって予約システムが違う。（財政により統一が難しい）

- ・多胎児家庭エンゼルサポーター派遣

多胎児家庭の育児負担軽減を図るため、多胎児家庭へのホームヘルパー派遣に対して助成を行う

生後～2歳誕生日まで・・・1日6時間以内

2歳の誕生日の翌日～3歳誕生日の末日まで・・・1日4時間以内

自己負担：訪問派遣費用（2,250円/1h）の20%相当額（450円/1h）

- ・幼児教育・保育を担う人材の確保と質の向

保育士就職ガイダンス事業

2. 就学期の子育て支援

1) 子どもの居場所の整備と充実

- ・「新・放課後子ども総合プラン」を策定

→希望者全員が入所出来るように整備する

- ・放課後児童クラブと放課後子ども教室の連携推進・学校施設の有効活用

3. 障害児等への支援

1) 障害児福祉サービス事業

- ・日常生活用具の給付、特別支援学校等送迎支援（障害児地域生活支援）
- ・放課後児童クラブにおける支援（作業療法士の派遣事業など）
- ・巡回相談サービス

Q：巡回サービスの内容と実績について

A：保育園に訪問して助言を行う／R5年度30か所48回

- ・発達支援室「すこやかルーム」 ※要予約

対象者：1歳～中学3年生まで 相談担当：公認心理士

ことばの遅れ、かんしゃく、集団生活が苦手、いつもと違うことに戸惑う、子どもとの関わり方など一緒に考えてアドバイスする無料相談室

Q：「すこやかルーム」R5年度相談件数について

A：153名 301回

- ・医療的ケアが必要な児童への支援

○基本目標2「安心して子供を産み育てられる環境づくり」

1. 妊娠出産期の子育て支援

1) 母と子の健康の支援

- ・ぴよママ安心パック事業（妊娠後期の健康相談）

Q：事業内容と対象者について

A：28週～35週の全ての妊婦さんが対象でアンケートを記入の上、子育て応援グッズのプレゼントと、安心して妊娠、出産、育児に取り組めるようサポートや健康相談、育児の情報提供などを行う

- ・母子保健コーディネーター事業

Q：事業の詳細について

A：保健師・助産師などの専門職「ママ&チャイルドコンシェルジュ」を健康センターに配置し、妊娠届出時に、妊婦さんと30分の面談をし、支援プランを作成する（希望者のみ約3割希望）プランに基づき、妊娠・出産・育児の総合相談役として切れ目のない支援を行う

2) 家庭の子育て力向上の支援

- ・利用者支援事業
- ・ワークライフバランスの推進
- 事業主、就業者や市民等の理解促進のための広報・啓発活動

2. 子育て世帯の経済的負担の軽減支援

- ・第3子以降学校給食費無料化事業

・R6年度～中学生（1～3年）給食費無償化実施

3. ひとり親家庭の支援

- ・遺児教育手当・遺児奨励金支給事業
- ・交通遺児奨励金支給事業
- ・母子父子寡婦福祉資金貸付の紹介

○基本目標3「子育て世代をみんなで支える環境づくり」

1. 児童虐待防止対策

1) 児童虐待防止対策の充実

- ・要保護児童対策地域協議会の強化
- ・こども家庭総合支援拠点の設置

支援が必要な子どもとその家族、妊産婦の相談対応、実情の把握や養育支援訪問などを中心とした専門的な支援を行う拠点の設置

- ・積極的な広報・啓発活動

緊急電話番号「189」（いちはやく）の周知

2) 支援が必要な子どもへの対応

- ・養育支援訪問事業

Q：訪問事業については、相談に応じて、または通報による訪問か

A：相談に応じてもちろん対応するが、支援が必要でありながら、自ら支援を求めていくことが困難な状況にある家庭に対して専門職が訪問し相談や指導を行い、支援につなげている

- ・子育て短期支援事業

子育てへの支援や協力を得ることが困難な家庭において、病気や出産など、子どもの世話が一時的に出来ないとき、夜間または宿泊の預かりを行う

- ・国際化の進展に伴う支援

- ・若者の自立支援

不登校やひきこもり、ニートなどの社会生活を営む若者が、地域で安心して生活体制を構築するための拠点である「若者相談支援拠点」の周知を行う

2. 地域における子育て支援

- ・地域子育て支援拠点事業

子育て未来館「げんキッズ」・・・白石市のキッズランドのモデルとなった施設

- ・子育て支援活動の啓発

地域で子育てを支援するため、祖父母世代を対象にした「孫育て」の

啓発・・・**祖父母手帳**の配布

・子ども食堂への支援

子どもに無料または低額で安心・安全な食事の提供

地域住民と子ども達の交流の場、子どもの居場所づくり活動を行う

団体の支援

Q：支援の内容について

A：母子寡婦福祉連合会に委託し年6回開催のこども食堂に対して、県の補助額の不足分を市で全額補助している

山形県東根市視察：概要

①背景・目的

「健やかな安らぎのある高福祉社会の形成」をまちづくりの目標とする東根市の少子高齢化実現のための拠点施設という位置づけで建設された、保健福祉および子育て支援の機能を兼ね備えた複合施設「さくらんぼタントクルセンター」を視察。

②内容・特色

1) 東根市の概要について

人口： 47,554人（R6.5月末現在）

面積： 206.94 km²

市長： 土田正綱市長7期目 就任当初（20年前）から子育て支援、少子化対策、教育に力を注いできた

2009年 第3回につけい子育て支援大賞受賞

平成28年 東桜学館中高一貫校を開校

特産物：佐藤錦発祥の地 生産量日本一（さくらんぼ）

2) 総合保健福祉施設「さくらんぼタントクルセンター」

平成17年4月1日オープン（最初の要望書から8年かけて完成）

6つのエリアがある複合施設

①子育て支援エリア

◇ひがしね保育所（定員150名規模）・・・民間委託

対象0歳～ 一時保育も対応

年齢に応じた保育室 医務室 オール電化厨房 食事室 園庭

◇ファミリーサポートセンター・・・NPO法人に委託

◇屋内大型遊戯施設「けやきホール」・・・NPO法人に委託

東根市のシンボル「大けやき」をモチーフにした大型遊具を中心

に 10 数種の遊びの場が設置され 150m のスロープで結ばれた東北屈指の屋内遊戯施設。

授乳室、ねんね★ハイハイルーム（赤ちゃんにも対応）

壁一面のホワイトボードコーナー

こどもシアター・・・読み聞かせや映像の放映ができる

◇子育て支援センター・・・NPO 法人に委託

②保健エリア

◇総合健診室◇調理実習室◇栄養指導室

→全て中通路があり廊下に出ずに行き来が出来る

（乳幼児健診、特定健診など、市民の健康増進の各事業を実施）

③福祉エリア

◇ミーティングルーム 1～7

（可動式間仕切りによって人数に応じた利用ができる会議室）

◇教養娯楽室（24 畳和室が二間・水屋を設け茶道にも利用可）

④医療エリア

◇休日診療所・・・東根市医師会に委託：初期救急医療

市民の応急医療

⑤共有エリア

◇ふれあいプラザ（交流と情報交換の憩いの場）

◇視聴覚室（70～100 人程度：防音機能あり）

◇大ホール（500 人程度収容：座席壁面収納できるため、健康体操や軽運動でも利用可、施設内のひがしね保育所園児も利用）

※講演会・演奏会・舞台可→音響・照明・舞台装置設置

⑥事務エリア（行政手続き窓口：平日 8:30～18:30 まで）

◇事務室（こども家庭課・健康推進課）

◇相談室（3 室） ◇応接室

主な質疑

Q：設立の経緯

A：保健・福祉・医療サービスの拠点となる施設が求められていた。基本構想の中で子育ての行き届いているまち、そして子どもの遊びたい欲求を満たす発達年齢にふさわしい遊具の整備が掲げられ、子育て支援施設と保健福祉施設に遊びセンター・ホールを加えた複合施設として市庁舎敷地に隣接する私有地へ建設した。

Q：複合施設にしたねらい

A：第 3 次総合計画において、子どもたちが生まれたことに喜びを感じ、若者が住むことに誇りを持ち、高齢者が暮らすことに安心を実感できる

まちの実現を目指していました。市民が主役の快適空間としてのシンボルとなるようにと建設がすすめられた

Q：利用者と利用状況

A：貸館：サークル活動や企業の研修

大ホール：中高生の部活動の発表、各種団体の総会

けやきホール：午前中は3歳未満の未就園児親子、各種サロン参加者

午後（夕方）は小中学生の放課後利用

週末・祝日は市外からの利用者

Q：運営委託のNPO法人について

A：市民会議のメンバーの保育士をはじめとする東根市の市民で立ち上げた「NPO法人クリエイティブひがしね」は、市民目線での事業実施、細やかな心配り、市民のニーズの把握、市民に近い存在という行政だけでは成し得なかったソフト面の充実を図っている。

官民連携の成功事例と言える。

Q：今後の課題

A：令和7年度に20周年を迎えるため、長寿命化計画により順次大規模修繕を進めているが財源の確保が課題。

長寿命化工事に伴う臨時休館・貸館制限が見込まれることから、利用者の満足度が下がらないような工夫が求められている。

補足：さくらんぼタクトクルセンターの屋内遊戯場「けやきホール」の屋外版子どもの遊び場「ひがしねあそびあランド」を平成25年度に整備

3) まなびあテラス

平成28年11月3日オープン

◆令和6年6月に来館者200万人達成◆

PFI方式（民間事業者のノウハウを活用して、設計、建設、維持管理運営を一括して発注する方式）で整備→白石市の道の駅と同じ整備手法

運営：TRC 図書館流通センター（全国展開）

多少の喧噪を包み込む賑わいのある文化複合施設（生涯学習拠点）

① 図書館

◇所蔵能力 20万冊（現在178,000冊）

◇自動貸出機（ユニクロのレジ方式採用）、自動返却機、

◇IC予約本受け取り棚、電子書籍、読書手帳、24時間受取BOX

◇併設カフェと図書館内につながっている。コーヒー等蓋つき飲み物OK

- ◇40席の学習室と10席のPC学習室
- ◇おはなしのへや（防音機能）
- ◇図書館内に授乳室、幼児用トイレを設置
 - ※子ども用本コーナーの本棚・椅子・テーブルが低く設定されている

②美術館

- ◇市民作品の展示（4分割）から、一流芸術作品の全国巡回まで展示
- ◇絵画、彫刻などのファインアートから、空間芸術やデジタル作品などの現代アートまで幅広いジャンルに対応
- ◇アトリエを備え、創作活動の場を提供
- ◇ワークショップなど市民参加型企画を多数開催

③市民活動支援センター（50超えの団体が利用）

- ◇ホームページや施設に設置しているファイル棚で芸術活動団体の情報発信をサポート
- ◇講座室、プリント工房、地域映像アーカイブシステムを整備
- ◇市民活動の相談体制や、サポート体制を構築

④都市公園

- ◇公益文化施設と一体化した緑豊かな景観
- ◇図書館や美術館のイベントとも絡めた交流の場
- ◇芝生エリア

⑤プーランジェリーカフェ（独立採算）

「まなびあテラス」（平成28年11月開館）は中高一貫校「東桜学館」（平成28年4月開校）に併設され、通路でつながっていて、利用しやすい環境整備にも力を入れている。

山形県新庄市立萩野学園視察：概要

《新庄市小中一貫教育のあゆみ》

平成17年3月 小中一貫教育の導入の検討開始

平成18～19年 小中一貫教育の実践がスタート

平成22年3月 新庄市小中一貫基本方針策定

平成27年4月 「萩野小学校・萩野中学校」（施設一体型）開校

平成28年4月 学校教育法が改正され義務教育学校「萩野学園」となる

令和6年4月 1～9年生全校で323人

《学校教育目標》

「9年間の関わりの中で、望を持ち、自らを高め、

真摯に、たくましく生き抜く萩野の子どもを育てる」

《目指す子ども像》

- 望をもとう・・・仲間とともに主体的に学び続けようとする子ども
- 友をつくろう・・・豊かな心をもち、意欲的に自分らしい未来を築こうとするこども
- 汗を流そう・・・忍耐強く、健康でたくましく生きようとする子ども
- ふるさと・・・ふるさとを愛し、進んで関わろうとする子ども

《本校の使命》 ※抜粋

「将来にわたって地域づくりに貢献しようとする人材を育てることをもって、地域の期待に応える」

《教育過程の特色》

- ◆9年間の一貫教育カリキュラムによる指導
- ◆小中統一の「教育目標・学校像・子ども像」
- ◆発達段階に応じた4・3・2ブロック制（9年間で3ブロックに）
- ◆5年生からの教科担任制（3・4年生も部分的に実施）
- ◆8・9年生の教科教室制（教科ごとの教室での授業）
- ◆コラボ学習（プレスタ交流7年生が5年生に学習指導）
- ◆職業体験（13の事業者が来校して職業体験（6, 7年生）
- ◆タブレット支援（先生は先輩たち：マンツーマン指導）

※生徒総会は紙ベースの資料ではなく、タブレットにデータで配布

《異学年交流の推進》

- ◆全校行事（入学式・運動会・学園祭・9年生を送る会・卒業式・始業式・終業式）
ブロック行事の展開、縦割り清掃など全校生徒で行う
（社会性と思いやりの心を育む）
- ◆部活動は6年3学期から（部活動体験2回）

《校舎・設備について》

体育館（大・小・柔道場）プール（3階：25m・深さの調整をして全学年使用）→ソーラーパネルを設置し、災害時非常用電源に電力を補給
音楽室2室・図書室1室・学習室・教科専門室・特別支援クールダウン室・多目的ホール（ランチルーム）・交流ホール・職員室（全ブロック同室） 棚・水飲み場・トイレは、ブロックごとに適したサイズで設置

《制服等》

制服は5年生から着用（体操着・靴・カバン等は全学年統一）

《登下校》

3地区統合しているため、他地区から通う小学生にはスクールバス運行（3台） ※但し、中学生も11月～3月まで乗車

《コミュニティ・スクール導入について》

年4回開催（委員は全9校で84名）

※12～14名（萩野学園のみ）

会議出席だけではなく、あいさつ運動、縦割り清掃など積極的に学校へ来てほしい

《PTA から PTO へ》

学校・家庭・地域が一体となって教育を支える体制をつくる

完全ボランティア制

専門部の廃止

行事協力

《特別支援学級について》

ブロックごとの教室の配置

適応支援委員会(2か月に1回開催)

特別支援コーディネーター配置

クールダウン室を設けるなどよりきめ細やかな支援の充実

※課題は支援員不足

《地域との関わり》

ふるさと学習の充実（各教科ごとの取り組みがある）

総合的な学習の時間「はぎの探求タイム」

前期ブロック（1年～4年）	ふるさとを知る
中期ブロック（5年～7年）	ふるさとを考える
後期ブロック（8年～9年）	ふるさとを生きる

Q：なぜ4-3-2（前・中・後期）ブロック制か？

A：昭和22年に学校教育法で義務教育6-3制と制定した

しかし、現在は当時より発達が2年早い（身長・体重、生理的早熟の早期化）思春期到来 生徒指導上の配慮等

→今の時代に合わせていく必要がある＝5.6年生を中学生のステージへ上げることが望ましい

Q：義務教育学校の成果と課題について

A：成果について

①9年間でリーダーを3回経験できる（前・中・後期の3ブロックで）

②異年齢の交流で豊かな人間性と社会性を育める

思いやりの心が育ち、児童生徒の人間関係が良い

自己肯定感が高くなっている

生徒指導上の問題行動が減少した

社会のルールを守る。安全に生活するなど自律の心が育っている

③学力が向上している

前・中期段階から教科担任制の導入により専門的な授業を受けることができる。

9年間を見通した教育活動を展開できる

中学校教員が小学校課程へ乗り入れによる教科指導が可能

④不登校の大幅な減少

中1ギャップが見られない

9年間の継続した関わりにより児童生徒に寄り添った指導が出来る
開校10年目、初の卒業生のその後の進路先でも、「高1ギャップ」等の問題もなく過ごしている

課題 について

- ①中期（5.6.7年生）ブロックの位置づけを具体的に検討する必要がある→小学5.6年生と中学1年生が同じブロックになることから
- ②中期ブロック7年生のリーダーの育成
- ③教職員の配置（特に中期ブロック）
- ④6-3制からの脱却（地域の方々の理解が途上と感じる）
- ⑤中学生の生徒指導の問題が小学生に影響しないか
- ⑥リセットしにくい環境
- ⑦保護者間のつながりが薄くなった

天童市・東根市・新庄市立萩野学園

まとめ考察

今回の行政視察は「子育て支援施策」「保健福祉」「図書館などの公益文化施設について」「教育（小中一貫義務教育学校）」と、本市が今後取り組む事業について、先駆けて展開し成功している自治体を視察した。現在、人口減少・少子高齢化・核家族化・都市化・情報化・国際化など、我が国経済社会の急激な変化を受けて、価値観や生活様式が多様化している中、先を見越し政策に掲げた自治体の先見の明には脱帽し、感銘を受けた。

「子育て支援日本一挑戦中」を掲げている天童市の取り組み内容は、子育てをめぐる様々な問題を解決するための質の高い施策、事業の展開、また、きめ細やかな施策の体系を令和2年には作り上げていた。

天童市の子育て支援事業から、今後本市でも取り組むべき事業として

- ①病児病後保育の設置（対象：満1歳～小学6年生まで）
- ②多胎児家庭エンゼルサポーター
- ③こども家庭総合支援拠点の設置
- ④養育支援訪問事業
- ⑤若者の自立支援「若者相談支援拠点」の設置
- ⑥祖父母世代を対象にした「孫育て」の啓発
「祖父母手帳」の発行・配布
- ⑦こども食堂の支援

以上7点の整備を提案したいと考えている。

東根市は、7期目を迎える市長が20年以上前の就任当初から、「子育て支援・少子化対策・教育」にぶれずに取り組んでおり、加えて、行政と、東根市の市民で立ち上げたNPO法人との官民連携の成功自治体でもある。市民と同じ目線でソフト面を充実させNPO法人が運営すること、それを行政がバックアップできる体制を作っていることが最大の強味と言える。

また、「子育てするなら東根市、長生きするのも東根市」を具現化するように、「さくらんぼタントクルセンター」は、保健福祉施設と子育て支援の複合施設であり、「まなびあテラス」は図書館、美術館、市民活動センター、都市公園などと一体化した複合施設が県立中高一貫校と隣接し中心部に設置され、快適なまちづくりとなっている。

本市でも見習うべき点は大いにあり、人口減少・少子高齢化・快適で便利なまちづくりに取り組む必要性を原点に立ち返って考えるべきと改めて、少子高齢化を前提にしたまちづくりの重要性を感じた。

また、人口減少・少子高齢化を鑑みれば、多世代で利用できる複合施設としての取り組みに合わせ、若い世代の負担を最小限にするよう既存施設の利用などを考えていかなければならない。

新庄市では、小中一貫義務教育学校萩野学園が開校10年目を迎えた実績に基づき、様々な角度から詳細に視察をした。

「百聞は一見に如かず」の言葉があるように、イメージだけでは本質にたどり着けないことが多く、実際の学校生活を見た上で、本市に最適な小中一貫義務教育学校を手掛けることが最も重要であることを再認識した。今後、視察内容を含め、担当課と意見交換会を重ね、市民のための小中一貫義務教育学校を建設するために尽力していく所存である。